

附属養護学校のネットワーク・コンピュータシステムとその利用

附属養護学校 春原 克彦

1. 基本となる考え方

はじめから、大げさな話になってしまうが、知的障害がある児童生徒にとって、ネットワーク・コンピュータシステムは、学習支援、生活支援システムの大きな柱となっていくと考えられる。この柱は、進展する高齢化社会での支援システムともその核において一致する。今回導入されたネットワーク・コンピュータシステムは、本校にとって情報基盤を整え、新しい試みに挑戦する最初の大きな機会であると考ええる。

2. 本校のネットワーク・コンピュータシステムの概要

本校のネットワーク、情報コンセントの配置は、できるだけ校内全域に分散させた。児童生徒の学習・生活支援を念頭に置くとき、特別な場ではなく、日常生活の場で、システムが機能することを考えたからである。校内 LAN は、情報処理室に置かれたファイル・メールサーバーによって管理される構造になる。システムの利用もこのファイル・メールサーバーの活用がポイントとなる。

3. 利用

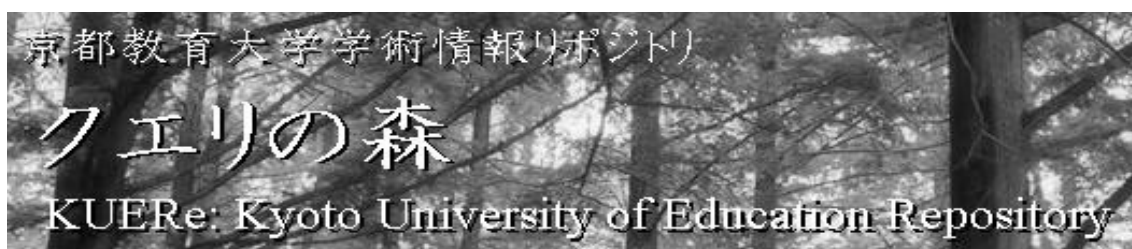
上記した本校でのシステムの特徴を踏まえ下表に、主要な利用内容の概要を短中期的な視点の基に整理した。

	1999年	2001年	2003年
遠隔授業システム・TV会議システム	障害児教育部会などでの利用の試行	→ 会議・日常的な業務連絡などでのシステム利用の定着	
マルチメディア教材での学習ファイルサーバ	行事・題材等の学習支援の試行	ファイルサーバ上での音声・映像素材のデータベース	日常的学習での行事・題材等の学習支援
コミュニケーション支援ツールの開発	個別ケースでのコミュニケーション支援ツールの開発の試行	→	自立活動などでの実践
TV会議システムを使った交流学习	交流学习とTV会議システムの可能性の整理・これまでの実践の継続	→	TV会議システムを使った交流学习の試行
個別実態データベースファイルサーバ	ファイルサーバ実験(特にプライバシー保護の研究)	運用の試行	稼働
各教室からのインターネット利用	修学旅行・校外学習等の事前事後学習		→
ホームページ作成(本校情報の発信)	主に教師によるホームページ作成	→	児童生徒も参加したホームページの作成
研究・教育実践プロジェクト推進の効率化ファイルサーバ・メールサーバー	校内共同研究でのイントラネット利用を実践的に検討する	マルチメディア教材・コミュニケーション支援ツール作成での利用・大学教官との共同研究での利用	成果の公表
教育実習 教育臨床 介護体験実習 メールサーバー	メールサーバー(実習ノート等での活用実験)	・教育臨床観察記録の共有化・介護体験実習での活用研究	具体的なシステム利用

システムの利用は、多岐に渡る。優先順位を付け実現可能なところから实际的で有効な利用をしていきたい。

4. 課題

以上述べてきたように、本システムの可能性は大きいですが、実現化の過程では様々な課題が予測される。特にファイル・メールサーバーの運用が現場の教師だけに任されのは無理がある。何らかの方法でネットワーク・システムエンジニアの支援が必要となるであろう。課題解決の為に最も大切なことは、本校教職員の間及び、大学との協力だと考える。知的障害がある児童生徒が、自ら生活をより豊かにするためのシステム構築に向けてのご協力を関係各位にお願いして本稿を閉じたい。



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。

